



子ども おい、あきおの家の近くでないか。

子ども 本当だ。

あきおはとても不安になりすぐさま家に帰ろうとした。

先生 あきお君、待ちなさい。

教室から飛び出したあきおは先生にひきとめられた。家の方角からは、真っ黒い煙が立ちのぼり消防車や救急車のサイレンがけたたましく鳴りひびいた。

あきお お母さんは。(間をおいて) 大丈夫かな。